

現代を担う教養と 教養教育を求めて

日時：2013年 **11**月 **18**日（月）13:00～17:25（17:30～19:00 懇親会）

会場：仙台ガーデンパレス 2F 鳳凰（仙台市宮城野区榴ヶ岡4丁目1番5号 TEL022-299-6211）

プログラム

講演1：「教養と日本の教養教育：その誤解を解く」

吉田 文 氏 | 早稲田大学教育・総合科学学術院教授 専門分野：教育社会学

講演2：「グローバル化時代における教養と大学教育の役割」

藤田 英典 氏 | 共栄大学教育学部長／教授 専門分野：教育社会学

講演3：「3.11 以後の科学技術と教養」

野家 啓一 氏 | 東北大学教養教育院総長特命教授 専門分野：哲学／科学基礎論

講演4：「企業は人なり～社会から見た教養教育～」

河本 武 氏 | 株式会社ユーハイム代表取締役社長 専門分野：教育経営学

労働・資本・情報が国境を超えて行きかう「グローバル化社会」、産業の高度化が進み、情報や知識が大きな価値をもたらす「知識基盤社会」、科学技術が地球環境や生態系に大きな影響を及ぼす「テクノサイエンス・リスク社会」、かつては、近代社会とひとくりに定義された現代社会は、さまざまな論者がさまざまな用語で定義しているが、その実相をひとことで言い表すには、いずれも言葉足らずの感が否めない。

明らかなことは巨大化・複雑化した社会を担い、全体を鳥瞰し、主体的に行動する人間が求められているにもかかわらず、人間の育成が著しく立ち遅れていることである。現代を担う教養が問われているといってもよい。人類が生み出した文化を基盤に、新たな知の創造と伝達を通じて次世代を育成する使命を持つ高等教育機関は、単に専門分野の知識を習得した人材を育てるのではなく、高い倫理性と価値判断力を備えた「教養ある人材」の育成という古くて新しい課題に取り組むことが必要である。

90年代の大学設置基準大綱化以後、ハーバードモデルの人文・社会・自然の3科目区分から解き離れた日本の大学教育は、様々な組織改組や試行をこの20年間繰り広げてきた。

現代社会が直面している様々な課題を直視し、現代に求められる教養と大学教育の課題を識者からの講演に基づき大学関係者で論議し、古くて新しい「大学における教養教育」のあるべき方向を模索する機会としたい。

■ 参加者の推薦、募集及び決定：

参加を希望される方は別紙「参加申込書」によりお申し込み願います。郵送またはFAXでお申し込みください。
また、申込書の記載事項をお書きいただければ、メールでお申し込みいただいても構いません。

■ 募集締切：平成25年11月8日（金）到着分まで

■ 参加者の決定：事前にお申し込みいただければ参加いただけますが、お申し込み多数にて参加いただけない場合は、その旨、通知いたしますのでご了承願います。

■ 参加費用：

- （1）セミナー参加料は無料ですが、セミナー参加に係る交通費、宿泊費等は全て参加者のご負担とさせていただきます。
- （2）懇親会に出席される方は、会費3,000円を当日会場にて申し受けます。

■ 連絡先・ご参加お申込先：

IDE大学協会東北支部事務局 〒980-8577 仙台市青葉区片平二丁目1-1

○ TEL：022(217)4807 ○ FAX：022(217)5906 ○ E-mail：gen-som@bureau.tohoku.ac.jp

主催：IDE大学協会東北支部／東北大学高等教育開発推進センター

